

松川 〔金谷川〕

浅川地区 の名所旧跡 ちょっくら旅

①皇大神宮神社

創建は比較的新しく慶応元年（1865）であるが、安政5年（1858）に結成され当時最大を誇った「伊勢外宮永代太々講」の講中170名の名が刻まれた石碑があり往時をしのぶことができます。社殿の中には金谷川随一と思われる両皇大神宮と刻された大きな石碑が収められています。



②比丘尼石と薬師堂

巨岩が2つ並んでおり、胎内に模しての信仰もあります。岩の間に挟まれるように薬師堂があり、比丘尼がそこに住みついたことから比丘尼石の名がついたといわれています。

巨岩には神が宿するという「イワクラ」信仰のなごりもあります。



③浅川正観音

平石菊地家一族の守り本尊と伝えられています。歴史は古く、正平年間（1346～1369）に九州の菊地一族が陸奥に下り、平石の地を永住の地と定めたことに由来しています。ご尊体は、一寸八分の金の仏であるとされています。

また「浅川正観音由来記」には、元弘3年（1333）に浅草観世音のご本霊を賜ったとあります。



浅川黒沼神社（場所は裏表紙参照）

旧浅川村の総鎮守であり、石姫 命を祀っています。黒沼神社には、明治19年に地元の画家によって描かれた浅川の風景画「浅川村見立八景」が奉納されています。「黒沼晴嵐」「古川帰漁」「以後田落雁」「大竹森暮雪」「笠松夜雨」「台橋夕照」「平石晩鐘」「比丘尼石名月」の八景があり、各景ごとに当時の歌人の秀歌を配しています。



④丸石公園（個人庭園）

昭和の初め頃まで「武徳殿」と称する剣道場があり、人々が剣道を習っていた場所でした。武徳殿を建てた神道無念流師範長南信武翁の彰徳碑が現存しており、その碑の前では「御前試合」も行われていました。現在では地元でも評判の桜の名所で、近くの小学生たちが遠足に訪れることもあります。



⑤毘沙門さま

七福神の一つ・毘沙門天尊で、導きの神として崇められている猿田彦信仰との結びつきもあります。その昔は、財富の神として広く信仰を集め、ここからお金を借りると家が潤うという言い伝えから、祭り当日お金を借りて翌年感謝の気持ちをもって倍返しするというしきたりがありました。現在も例年旧初寅の日に祭典が行われ、早朝に参拝すると甘酒が振る舞われます。



⑥貝吹館

貝吹の貝とは「ほら貝」であり、敵の来襲をほら貝を吹いて知らせたことからこの名称がついたと考えられています。松川八丁目城の守りも兼ねていたらしく、山頂付近には空堀と思われる溝が掘られており、出城だった可能性もあります。また津島神社があります。

⑨富士浅間神社

通称「ごんげんさま」。創建は古く、延宝元年（1673）に駿府（静岡県）の富士浅間神社より勧請したと伝えられています。祭神は世界遺産である富士山の神様と同じく木花咲耶媛（大山津見神の娘）で、安産の神としても信仰されています。



⑧船橋十一面正観世音

正保4年（1647）尾形若狭創建と伝えられています。観音信仰は現実社会においてすぐに理想や救いをもたらされるという現世利益にあるため即効性を求めて信仰が広まりました。十一面正観音は十一面の顔を持ち、頭頂は釈迦であり、病を除き、罪を浄め、幸福をもたらすとされています。



⑦宇佐八幡神社

御本社は大分県の宇佐八幡宮。祭神は誉田別名・息長足彦命・息長足姫命＝神功皇后＝応神天皇の母。勧請は慶長14年（1609）に分霊された記録が宇佐八幡宮に残されています。東北で宇佐を名乗る八幡神社はあまり見られません。

